

活動例4【人とかかわり】 3歳児 2学期

『おおかみと七匹のこやぎごっこ』

育てたい力

- ・自分の思いを言葉で、友達に伝えようとする力
- ・保育者の援助で相手の思いに気づき、受け入れようとする力
- ・友達と一緒にごっこ遊びを楽しむ力

経験させたい内容

- ・自分のやりたいものになって友達と一緒に遊ぶ。
- ・それぞれが自分の思いを出し合い保育者の援助で、折り合いをつける。

3歳児11月 事例

【クラスの実態】

- ・男児13名、女児10名、計23名のクラス。
- ・運動会を経て、秋の自然に親しみながら戸外遊びを十分に楽しんでいる。
- ・好きな遊びを気の合う友達と一緒に遊ぶ姿が見られ、生活経験したことを再現したごっこ遊びを盛んに楽しんでいる。

【活動の流れ】

「おおかみと七匹のこやぎ」の絵本が大好きで、繰り返し読んでもらっていた。保育者がおおかみ役になり、おおかみから逃げて遊ぶ鬼ごっこを楽しんでいた。ジャングルジムを家に見立てて、おおかみとこやぎの言葉のやりとりを楽しんで遊ぶようになった。

【指導や環境の工夫】

- ・自己主張をし合い、相手の思いに気づきにくいので、保育者の言葉かけで、自分の思いを主張しつつ、相手の思いにも気付いたり、受け入れたり出来るようにする。

【エピソード】 『わたしも、おかあさんやりたいの』

【記録前の様子】 園庭での好きな遊びをしている時に、ジャングルジムを家に見立てて、4～5人で「おおかみと七匹のこやぎ」ごっこを楽しんでいる。

『わたしも、おかあさんやりたいの』 A子「じゃあ、私お母さんね。」、B子「私は時計に隠れるちびやぎ」 C子「私もこやぎ」 D子「……」、D子は、保育者には「お母さんやぎになりたい」と言ってくるが、言い出せないでいる。 A・B・C子が「それじゃあ〇〇先生におおかみになってってお願いいこう」と保育者を呼びに行く。保育者がジャングルジムにやってくるとD子が何も言わずに立っていた。

保育者が「今日は先生はおおかみじゃなくて、こやぎになって隠れるのをやってみたいの」と言うと、A子が「先生がこやぎになったら、おおかみは誰がやるの?」と聞いてきた。保育者が「誰か他の人がやってくれないかな?」と言うと、しばらく沈黙の後、A子が「それじゃ誰かおおかみをやる?」B子が「おおかみは怖い声を出さなくちゃいけないよ」、C子「私はおおかみはいや」とするとD子が「私はお母さんがいいな・・本当はお母さんやりたいの」A子「それじゃあ、私おおかみやってみる」と言い、それぞれ役割を変えて、その日のごっこ遊びが始まった。



【その後】 それぞれが、自分のやりたい役を言い合い、やりたい役になって繰り返し遊びを楽しむ姿が見られるようになった。

予想される活動例

- ・レストランごっこ
- ・鬼ごっこ
- ・しっぽとり
- ・表現あそび

【4歳児へのつながり】

- ・保育者の言葉かけで相手の思いに気づき、相手と折り合いを付ける力が育ち始め、自分の思いを伝え友達の思いを受け止める力になっていく。